

令和5年度 技術科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 前年度に引き続きものづくりや情報に関して興味関心をもって授業に取り組む生徒が多く見受けられた。

(2) 課題

- ・ 前年度に引き続き、思考・判断・表現力を伸ばすことが必要。そのためには基礎基本的な知識や技能の習得が必要不可欠である。ものづくりの楽しさを念頭に置くことを忘れずに、基礎基本的な知識・技能の習得を目指す。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ JIS に基づく構想図の作製は、基礎・基本の課題は十分なレベルに到達している生徒が多い。	・ 自分の生活がより便利になるよう自らの考えを作品にすることに苦手意識がある生徒が多い。	・ 木工での製作を通し、自ら課題に対して取り組む姿勢が見られた。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 基本的な知識について覚えることはできてもその知識を生かしての応用力が低い。	・ エネルギー問題について、得た知識をもとに、現在の日本でのエネルギー事情について自らの考えを持つことができた。	・ 電気スタンドの製作を通し、進んで製作意欲を持ち、作業に取り組めた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ プログラミングの基礎基本的な知識は習得している生徒が多い。	・ プログラムのアルゴリズムを考えることを不得手としている生徒が多い。	・ 課題に沿ったプログラムを構築することに意欲的に取り組むことができる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な構想図を立体に書き表す時に等角図（キャビネット図）、第三角法を用いて書き表すことが苦手な生徒が見受けられる。そこでICT機器を使用し、視覚的なわかりやすい授業の展開を実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の中で正確に構造物をつくるため、使用工具の知識を築かせたうえで必要に応じて工具が選択できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した製品を実際に家庭で使用することで、作る喜びや達成感を味わわせ、次の領域の主体的に学ぶ力に反映させていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で反復練習の時間を設定するとともに、その知識を応用できる力を身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやテーマごとに書き溜めてきたものを元に、領域のまとめを行い、テーマについての横断的な考え方を身に付けさせる工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した製品を実際に家庭で使用することで、作る喜びや達成感を味わわせ、次の領域の主体的に学ぶ力に反映させていく。 ・自らの考えを作品作りに生かせる場面を取り入れていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの実習を経て知識を習得し実践できるようにさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えをプログラムにできるよう授業展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングを通し、皆の生活の中でのプログラムの大切さ、よりよく生活していくためのものであること味わわせ、次の領域の主体的に学ぶ力に反映させていく。